

第 40 回岐阜県病院協会医学会

放射線情報管理システム（F-RIS）と内視鏡情報管理システム（Nexus）とのオーダー連携について

¹岐阜市民病院 中央放射線部

○小澤 将直¹、橋本 駿介¹、竹中 栄治¹、坪井 由康¹

【目的】

当院中央放射線部で行う放射線業務は通常 F-RIS を使用しているが、超音波検査では Nexus を使用し、Nexus が受信したオーダーを F-RIS に送信する連携で運用しているので、その利点を報告する。

【使用機器】

電子カルテ：富士通社 HOPE LifeMark-HX

放射線情報管理システム：富士フイルムメディカル社 F-RIS

内視鏡情報管理システム：富士フイルムメディカル社 Nexus

【経緯】

2024 年の病院情報システム更新以前は電子カルテから F-RIS と Nexus 両方へオーダーを送信し、F-RIS で実施、実績を電子カルテへ返し Nexus で画像保存とレポート記入を行う運用であった。更新を機に Nexus で実施入力も可能となったため F-RIS へのオーダー送信を廃止し Nexus のみでの運用を行っていたが、現在は Nexus で受信したオーダーをそのまま F-RIS へ送信する機能を追加し F-RIS 上のオーダーは Nexus の実施状況が反映される設定に変更した。なお、超音波検査に関して F-RIS と電子カルテの実績連携はオフラインとしている。

【結果】

F-RIS にオーダー連携することで、限られた端末でのみ使用可能であった Nexus だけでなく、部内に多数ある F-RIS で超音波検査のオーダー確認が可能となった。中央放射線部では通常、業務を F-RIS で行っているため F-RIS 上で超音波検査を含めたオーダー状況が確認できることで、各検査室の予約・検査状況を把握でき適切な人員配置につなげられると考える。また、過去や当日、未来の放射線検査、超音波検査を一覧で把握でき、即座に他検査の結果や予定を参照できるため、それらを活用することで検査の質や患者サービスの向上につながっている。

【結語】

システム更新を機に追加した放射線情報管理システムと内視鏡情報管理システムのオーダー連携による利点を報告した。